

## 職員アンケートの考察と来年度の方向性

### 1 研究主題・副主題について

昨年度からの継続研究であり、今年度は更に実践を通して研究成果を明らかにしていく必要があるため、適切な主題であったという意見が多く出された。

### 2 研究目標について

研究主題につながる具体的な目標として適切であった。実際に実践してみるということが大切な研究であったので良かったという意見が出された。

### 3 研究内容・研究方法について

#### (1) 午前5時間制の取組について

今年度は昨年度の試行をもとに学期を通して、午前5時間制日課に取り組めたので、子どもも教員もスムーズに適応することができたという意見が多く出された。今年度は学期を通して実施したので、成果や課題を昨年度より具体的に明らかにすることができた。午前5時間制を3学期も続けて行っても良いのではないかという意見もあったが、午前4時間制に戻して生活したことで、改めて午前5時間制のメリットを感じることができ、特に児童の授業の集中力の違いを実感する場面があったという感想が出された。

#### (2) 業務改善の取組について

職員の朝礼を廃止し、終礼のみにしたことで、朝の時間を児童とのコミュニケーションや指導に充てることができ、業務改善に有効であったという意見が多数出された。朝礼を廃止したことで、連絡事項の伝達に不安があったが、廊下に設置した大型ホワイトボードの活用によって、予定や締め切り等の確認をすることができた。しかし、廊下の設置であるため、ホワイトボードに書かれている内容については留意していき、今後も設置場所やよりよい活用方法については検討していく必要がある。昨年度から進めてきた教科担任制では、教員の負担が軽減されたという意見が多数出され、業務改善や児童の学びの質の向上に有効な手立てになるのではないかと考えられる。

今年度は「業務改善事例集」を作成して全体で共有したが、感染症対策の影響で新たな具体的な取組を積極的に進めることができなかった。業務改善は今後も重要な課題であるので、引き続き、一人一人が意識したり、良い実践を共有したりすることが大切である。

### 4 研究計画について

今年度は感染症の影響で年度当初計画していた他県の先進校の視察や県外から招いた業務改善アドバイザーの講義等が実施できなかった。研究形態が手探りの中、午前5時間制日課を計画通り実施し、新たな成果や課題を明らかにすることができたのは良かった。また、感染症対策に配慮しながら拡大校内研究会を開けたことで、他校に情報を発信することができた。参加された他校の先生方からも貴重なご意見をいただき、活発な研究会となった。研究発表だけでなく、ブロックに分かれて行った意見交換会を行うことで、午前5時間制の実際の児童の様子や教員の感想を詳しく伝えることができた。参加者の先生方からたくさん質問が出され、午前5時間制日課への関心の高さや今後の発展性が感じられ、計画通り実施できて良かった。

## 5 研究組織について

2つの部会に分かれて研究を進めることとしたが、業務改善部会はあまり機能させることができなかった。研究推進委員に負担が大きくなってしまったので、もっと責任を分担できれば良かったのではないかという意見が出された。今年度は校内研究のもち方が例年と違ったことで、両方の部会を機能させることが難しかった。

## 6 研究の成果

昨年度の午前5時間制の試行で明らかになった授業時数の確保や午後のゆとりの時間の確保、児童の生活習慣の確立の3つのメリットに加え、新たに「たまなび」の時間の有効性が今年度確認された。これまで朝の20分間にあった「あさかぜ」の時間（朝学習や児童会活動等）を午後の清掃の後に移し、「たまなび」という名称に変更した。午後にあることで、その日に行った授業の復習に有効に使えることで、学力の定着につながるという意見が多数出された。また、6校時と合わせて65分授業も可能になるという点で高学年にとって有効に使えるという意見も出された。午後のゆとりの時間についても肯定的な意見が多く、児童とゆっくり話したり、遊んだりする時間が増加した。児童会活動や選挙活動のための時間としても有効に活用された。

## 7 研究の課題

昨年度の課題として挙げられていた朝の時間の短さについては朝の会を簡略化したり、児童の時間に対する意識が変化したりすることで、改善されているものの、来年度も引き続き、児童も教員も時間を意識して生活することが重要であるという意見が出された。

熱中症対策や感染症対策で外遊びができなくなったり、図書館が閉館したりしたときの昼休みの過ごし方の対策が必要であるという確認がされた。テレビ放送や音声放送を活用したり、教室内で使える遊具を用意したりすることで改善していけるのではないかという意見が出された。来年度も昼休みに教室内で過ごさなければならない場合、これらの取組を実践し、反省をもとに改善していきたい。

## 8 来年度の研究の方向性について

来年度は年度を通して午前5時間制を実施していくことが確認されているので、継続研究をしていくべきではないかという意見が多数出された。1学期や3学期は午前5時間制を実施していないので、どのような成果や課題があるのかを明らかにしていく必要がある。また、今年度あまり成果を出せなかった業務改善についても積極的に取り組み、子どもの学びの質の向上や教員の多忙化改善について、より研究内容を深めていけたらと考える。